



# クラブ 会報

## CLUB BULLETIN (WEEKLY)

### 鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 1934.6.9

承認 1934.6.27

|     |        |                  |
|-----|--------|------------------|
| 例会場 | 鶴岡市馬場町 | 物産館3階ホール         |
| 例会日 | 毎週火曜日  | 12:30～13:30      |
| 事務所 | 鶴岡市馬場町 | 商工会議所内           |
|     |        | 電話 0235 (2) 7711 |

|       |              |
|-------|--------------|
| 会長    | 嶺岸光吉         |
| 幹事    | 佐藤村徳男        |
| 会報委員長 | 川小西海藤 池海藤 一昇 |

---

No., 1071      1980. 8. 26 (火) (雨)      No., 9

---

### ビシター紹介

佐藤五右工門君 請負一温海R.C  
 松田善三郎君 製麺本間文一君 左官一鶴岡西R.C

### ◆ ゲスト紹介

株式会社 小いけ社長 小池新太郎氏

### 会長報告

嶺岸光吉君

。山形クラブの30周年記念式典に新穂光一郎君がクラブ代表で参加、その礼状と写真が来ております。

# TAKE TIME TO SERVE

時間を捧げよう 奉仕のために

## 幹 事 報 告

佐藤 衛君

1. 会報到着  
台中港区R.C、鶴岡西R.C、遊佐R.C
2. 認証状伝達式のご案内  
11月2日 日曜日 第265地区 滋賀県能登川R.C
3. 認証状伝達式の登録のご案内  
11月30日 日曜日 第275地区 東京町田中R.C  
会場は新宿の京王プラザホテル
4. 今日いただいたガバナースレーターP4頁 地区の職業奉仕委員長としてご活躍なされました早坂パストガバナーの退任の言葉が載って居ります。  
長い間本当にご苦勞様でした。

### ◆ ゲストスピーカー紹介

プログラム委員 齋藤 栄作君

小池さんは皆さん知らない方は居ないと思います。小池さんは、非常にセンスの良い呉服を商いされているわけで、婦人方にとっては、よだれの出るようなお店でございます。また、小池さんは、短歌とか随筆とか、そういう方面にも非常に造詣が深い方でございます、らくがきクラブとかそういう方面にもご活躍されておられます。

### ◆ ゲストスピーチ

#### き も の 雑 感

株式会社 小いけ 社長 小池 新太郎氏

私はきものを商いして世を渡っている呉服渡世の小池新太郎でございます。さきほど三井さんから市民憲章の板をご寄贈になって、できるというお話がございましたが、家中新町という通り、原田酒屋と池原牛乳店の前のところに土地を買って庭を作りましたが、十数年たってもまだ土地の人は私の真意がわからないので、このたび呉服渡世小池新太郎という名前で板を出しました。それには「庭は心のふるさと、うるおいであり、一番いい賓客を通す座敷の前に庭は作られます。この庭は旅ゆく人、まちを行く人のために造園したものですから、どうぞ町の人も協力してきれいにしていきたいと思います。街を明るくいたしましょう」という板をこの間立てたばかりでございます。さきほどの市民憲章の気持が少しは入っているものと存じます。

さて、この前着物の話をしましたところ、またひとつ、やわらかーい着物の

話をぜひ聞かせて欲しいというお話でございました。ご満足がいきますかどうかお話をしてみたいと思います。

男の着物と女の着物の違いは、色と柄というものを除きますと、女の着物は腰紐というものを締めて体に丈を合わせ、ですからその腰紐をほどきますと肩をかけた姿はちょうど長さが引きずるようになっているのでございます。女の着物は長く、男の着物は身丈であるということは先刻ご存じのことと存じますが、これからお話することは、どなたもあまりご存じがないし、考えたこともない、また、偉い先生方の本にも載っているものではございません。それで、そういった私の考察は現代の感じからしますと、もう消え去ってしまったものでございまして、もう今は通用しないというようなことを頭に置いてお聞き願いたいのでございます。

まず、日本に、身にまとうものといえば、やはり麻。いろいろの麻がございましたが絹と麻によって長い間過ぎてまいったのでございますが、綿というものが入ったのは非常に遅れまして、その間、綿がありませんでしたから太陽が沈んで、また朝になって出る間、照明の乏しい生活の中に人間が身を横たえて休む時間はどんなふうにしていたでありませんか。綿というものが無ければ、休むという寝具は存在しなかったのでございます。

絹の褥というものがありますが、これは板敷の上にまだ畳がたくさん敷かかってない、その前は殆んど一畳か二畳、点々と置かれた、そこに座るといふ、その前も板敷の上に絹の布を敷いて休んだのでございますが、それは極く限られた非常に稀な上流の人でなければそういうことはいたしませんでした。それではどういう風に庶民やその他はしていたでありませんか。

寒暖の関係は着物に与えるところが多いのでございますが、これが大きくかわりをもつわけでございます。「きりぎりすなくやしもよのさむしろにころもかたしきひとりかもねん」というのは百人一首で子供の頃からうたいなれた歌で、どなたもご存じだと存じますが、かもねんのねんは「寝る」でありまして、やすむことでございます。今夜こそ愛しい方がお尋ねになってお互の衣の袖……その頃は広袖でございますが袖も広い袖です……衣の袖を敷き重ねてそして愛を確かめ合おうと思ったのに、ついに訪れがなかった。それで自分の衣を敷いただけで、小うつぎなどをくるまって独りで寝ましたが非常に胸まで寒さがこおりつくようで、こおろぎの音など耳にさわって寝ることができない。そしてその悲しい想いの私の涙は袖をぬらした、というざっとこんな意味でございます。ころもかたしきでございますから当然男女の情事には双方の衣を敷く、そういった状態でございまして、そこに女の着物の長さ、これはそういった場合にかける一つの夜具あるいは、きものという女のものは夜具の代りになっていたということが良くわかるのでございます。夜具の無い時代には着物が夜具の代りになっていたということでございます。

こういう話をするということは偉い方もなかなか無いので現代では理解の出来ないことではございますが、男女の着物の差というものは、男の着物は、まず

仕事に生き仕事に死ぬのが男の甲斐性、本性でございます。でありますからどうしても着物は活動性をもつ着物であって、そして豪放な感じということになります。女は当時、現代のように自立することができません。どうしても権威のある或は強い男のそばに身を置くことによって自らが安泰になって行くということになっていたわけでございます。女は恋に生き恋に死ぬというような、着物の感じは女らしさを求められるわけでありまして。女らしさとは、かよわさがあって色っぽいということでございます。これがないと生きていけない。それを確保するにはどうしても着物をおいて外になかったでございます。源氏物語のあたりにも出てきますが、上流の男の人に慕われて住んでいる女が、ほかに男に女が出来て、5年、10年と訪れることが無いために、散り散りになったしもべがただ一人、残った女とともに職を求め、遂には色を売ったというような、女としてはなかなか経済的な面で自立することが出来ない、強い男のそばでないと出来ないというようなことがあります。ここにかよわくて頼りにするものがない、そしてその女らしい色っぽさのある女の人が居ましたら皆さんはこれを放りっぱなしに出来るかどうか考えてみれば当時の心境がわかると思います。

着物で体をかくすということはどういうことかといひますと、それは先程、もう無くなってしまったという話、それに通じますが、性本能でありました。それは、ものを隠す、あらわにしないでかくすということに羞恥心というものを誘発して性本能を刺激し、男女の営みがはげしくなり人口をふやす。まあ、どんなことの必要かといひますと、もう現代ではそうではありませんが大量生産という、物を作るには技術が稚拙でございましたから、何に頼るかといひますと人の力に頼るしかなかったのであります。人が不足でしたら寺をたてるにしても、またはお墓をつくるにしても…… 前方後円墳などは、何百人、何千人という人が必要なのであります。そういった人が居なければ何事もできなかったものですから、今の我々が想像も出来なかった程のそういうことは大切なことであり、重大な必要なことがあったと思われまふ。

色ごとの話をしますと、とかく厳肅でないという感じは現代人の感覚でありまして、昔の人から言わせまふと、それこそ厳肅なできごとであったといわれるのであります。そういうことが続きまして、だんだん長くなりますと、こういう性本能の人口増加という初期の目的からは次第に変化した、性の営みが愛欲のことだけになってまいりますと、着物は俄に装飾を得てまいるのでございます。そして絢爛たる文化の開花となって行くのでございます。

江戸時代、町民も非常に勢力がふえますと、こうして庶民とともに美しい着物を着る時代となりまして、日本独自の、着物によるしぐさ、というものが生まれてまいりました。女らしさ・色っぽさによる着物のしぐさはどういうことかと申しますと、女の感情を決して言葉にはしない、しかし言葉でしないで伝えるということでございます。皆さんにはわかり易く申せば、パントマイムでございます。

例えば、現代は「お帰りなさい、外は寒かったですよ」と勝手から立ったままで返事をします。昔の女は、前掛で濡れた手を拭きながら、だまって表情を豊かに玄関に迎えたものでございます。現代の気持はよくわかりますが、しぐさというものがあらわれたこと、そういうことは色々ございまして、主婦になりたてに朝のお膳に、ふとして夫の目とかち合ったときは、昨夜の自分の陸言あるいはあられもない自分の姿態を思い出しまして、両の袖で顔を覆う、こういうしぐさがありました。

こういうしぐさは男にとってまことにいじらしい、そして本当に愛しさがまたいや増すものでございます。そして少し新婚から過ぎれば、口もとを袖で覆い、そして目は艶然と笑う、というまことにたまらない、いい姿態でございます。そういうことからまた泣く、女は笑うと思えば泣きますが、この泣く場合は袖で顔をかくして、よよと泣く。これは袖ぶすまというしぐさで、着物のしぐさでございます。男の前に胸もとに両袖を合わせて、そういうときは、その恋をする故に苦しい胸、ということがいじらしく表われているのでございまして、その切なさが見えて、心の中では、好きなんです、胸が苦しいんです、と言葉では決して言わずとも、そういうことが感じられるのでございますが、それを感応した男が、寒いんですか、などと言ってしまえば、その実に野暮ったさに腹を立てた女は、ええそうです。と言ってしまいます。これは色男ならずとも心すべきことじゃないかと思えます。

仕事で遅くなったということがわかりながら拗ねてみたいのが女でございます。足音を聞きますと思わず袖の端を前歯でかじりながら目には一杯の涙を浮かべて拗ねてみせる。私のことは嫌いになったんでしょう、なんということの口には決して出しておりません。そういうところがまたいじらしい女の姿。きもの姿のしぐさでございます。恋する故に一言もならず、袖の端を噛み、さびしさに堪える女の姿を、情緒を感ずるのは男の身勝手でありましょうか。男に好きな女ができたというのはどこまでも憶測でございます。それでそこに証拠もないのに女がさわげば、夫婦関係にゆがみが出来、それにもまして女らしさを失えば己れの不利となります。黙って袖を噛みばまことにそつがございません。男が何事もなかったら笑って見過すだろうから、どちらにしても傷がつくことはございません。事実であれば途惑うでしょう。しかし男をそこまで追えば充分でございます。着物の故の言葉のないしぐさこそまことに絵になる世界でありまして、洋服ですとこういう噛む袖がございません。そして、しぐさのない言葉をもってお話しますから人間関係をそこねてしまうことがございます。

私は皆さんにお尋ねしたい。着物がなくなった為にしぐさも消えてしまいました。そしてその代りに肌は露出する洋服、近ごろ臍まで出す、そういうことが男の魅力となったとき、そして言葉以外に感情を表現することが出来なくなった女といずれが良いとお考えでしょうか。

女にどしどし着物を着せて美しくすることは男の甲斐性でありまして、皆さんの経済力ではいと易いことでございます。不経済と思われる着物の投資は皆

さまに楽しい美しい極楽に通じるものということをお教えしておきます。女に着物を与えるそのせつのは、呉服渡世の私が言わずもがなの願いを口にせず、今日の皆さまのご静聴をお礼申し上げますとお話を終えたいと思います。ありがとうございました。

## 委員会報告

### ◎市民憲章示板の設置について

(前年度) ロータリー創立75周年記念事業委員長 三井賢二君

先日ようやく県の方の認可がおりて、テニスコート附近に設置の予定です。現物は既に出来ており、近々立てられますので、ぜひご覧下さい。

### ◎スマイルとゴルフ大会について

親睦活動委員長 佐藤 忠君

1. 西海君のご長男の章さんが去る8月24日めでたくご結婚されました。ほんとうにおめでとうございました。(スマイルを頂戴しました)
2. 第1回のゴルフ大会を9月13日(土)12時30分スタートで開催したいと思います。詳しいことは後程申し上げます。

### ◎フォーラムの出席について

クラブ奉仕委員長 中江 亮君

9月7日温海で開催されるフォーラムに多数出席されるようホストクラブの希望であり、先般の例会で各委員会1名の出席を会長さんからお願いしましたところ18名位でした。この方々は今日の例会後残っていただきたい。

## 出席報告

|       |     |        |   |  |
|-------|-----|--------|---|--|
| 本日の出席 | 会員数 | 69名    | 欠 | 中村(真)君、金沢君、黒谷君、小池君、皆川君、野村君、笹原君、佐藤(昇)君、佐藤(友)君、玉城君、津田君、上野君 |
|       | 出席数 | 57名    | 席 |  |
|       | 出席率 | 92.61% | 者 |  |

|       |       |        |     |                |
|-------|-------|--------|-----|----------------|
| 前回の出席 | 前回出席率 | 88.41% | メア  | 小池君、野村君一鶴岡西R.C |
|       | 修正出席数 | 63名    | 1ッ  |                |
|       | 確定出席率 | 91.30% | クラブ |                |